

## 観光資源としてのふれあいファームの地域特性分析

### Analysis for Regional Characteristics of Experience Farm as Tourism Resource

伊藤 寛幸\*1

ITO, Hiroyuki

北海道の農業農村において展開されている「ふれあいファーム」制度に着目し、「ふれあいファーム」データの分析によって地域特性を把握することが本稿の目的である。本稿では、構成比によりえられる地域係数（特化係数、集中化係数、専門化係数）を分析指標とする。北海道の「ふれあいファーム」制度の地域特性把握によって、観光資源としての「ふれあいファーム」のポテンシャルを探るうえでの検討材料としたい。

キーワード：ふれあいファーム、地域係数、地域特性

#### 1. はじめに

北海道が観光立県であることに異論を唱える余地はない。「行ってみたい旅行先」として、北海道は、京都、沖縄とならび上位に位置する。北海道観光は、都府県にはない豊富な自然環境へのふれあいとその第一義的な目的である。都府県にはない豊富な自然環境とは、広大な農村空間が織りなす景観や生態系などである。それらの景観や生態系は、農林水産業による2次的自然としてとらえることができる。さらに、これらの2次的自然を活用した6次産業化など、産業を横断した観光を含む農商工連携が展開されている。農業は裾野の広い産業であるといわれていることから、農業との連携によって、観光が産業として成立することへの期待は大きい。

関連研究には、サクランボ狩りの観光農園100地域について価格と集客圏、所得の関係を分析した林(2010)、農村空間の商品化に関する観光活動について地域区分を行った田林他(2014)などがある。北海道の農業農村に賦存する農村景観、動植物とのふれあい、さらには、食材としての農産物を観光資源としてとらえ、地域特性を定量的にとらえた研究を筆者らの知る限り発見することができなかった。

こうした背景をうけて、本稿では、北海道の農業農村において展開されている「ふれあいファーム」制度に着目し、「ふれあいファーム」データの分析によって地域特性を把握することを目的とする。

#### 2. データと方法

##### 2.1 分析データ

本分析で用いるデータは、北海道農政部農村振興局農村設計課(2017)の「ふれあいファーム」ガイド(注1)に掲載されている地域別種別データとする。データには、個別のふれあいファーム(注2)ごとに、そのふれあいファームが実施しているメニューが記載されている。

---

\*1 (株) ルーラルエンジニア

地域別とは、17（石狩、渡島、檜山、後志、上川、留萌、宗谷、オホーツク、胆振、日高、十勝、釧路、根室、南々空知、南空知中央、中空知、北空知）に区分された地域である。本分析では、北海道農政部農村振興局農村設計課（2017）を参考に、北海道の行政区分のひとつである北海道庁の出先機関として設置されている振興局を基本単位とした14地域（石狩、渡島、檜山、後志、空知、上川、留萌、宗谷、オホーツク、胆振、日高、十勝、釧路、根室）にデータを集約する。種類別とは、8つ（体験見学、作る、味わう、動物、果物収穫、遊ぶ、直売、宿泊）のメニューである。メニューの内容を表1に示す。

## 2.2 分析手法

地域特性の把握には、構成比によりえらえる地域係数を分析指標とする。地域係数として、特化係数、集中化係数、専門化係数を用いる。それぞれの係数について概説する（注3）。

### 1) 特化係数

$\gamma$  地域*i*項目の特化係数は、全地域における*i*項目の構成比で、 $\gamma$  地域における*i*項目の構成比を除して求める。

1.00 より大きい小さいかで地域の特徴的な構成（特化度）を判断できる簡便法である。

### 2) 集中化係数

全域的にみて、該当項目の集中化が進んでいるかの判断に用いる。

1.00 に近づくほど該当項目は特定の地域に集中していることを示し、0.00 に近いほど該当項目は特定の地域には集中していないことを示す。

表1 「ふれあいファーム」のメニューと内容

メニュー	内容
体験見学	収穫などの畑作体験、稲作体験、酪農作業体験、農業施設見学ほか
作る	アイスクリーム、ジャム、パン、草木染め、ドライフラワー、陶器ほか
味わう	アイスクリーム、しぼりたて牛乳、新鮮野菜を使った料理、自家製チーズ、自家製ソーセージほか
動物	乗馬体験、羊毛刈り、乳しぼりなど、動物とのふれあい
果物収穫	イチゴ摘み、ブドウ狩り、サクランボ狩り、リンゴ狩りほか
遊ぶ	カヌー、釣り、歩くスキー、ゲートボール、パークゴルフ、テニス、遊具施設ほか
直売	農産物の直売、農産加工品の販売、通信販売ほか
宿泊	ファームイン、ロッジ、キャンプなど

注) 北海道農政部農村振興局農村設計課（2017）を参考に筆者らが作成。

表2 ふれあいファームの地域別メニュー集計と地域係数(2017年)

地域	体験見学		作る		味わう		動物		果物収穫		遊ぶ		直売		宿泊		計		専門化係数
	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	構成比	件数	
石狩	37	35.2%	11	10.5%	13	12.4%	11	10.5%	34	32.4%	7	6.7%	93	88.6%	1	1.0%	105	100%	0.44
渡島	17	45.9%	4	10.8%	9	24.3%	5	13.5%	10	27.0%	2	5.4%	33	89.2%			37	100%	0.36
釧路	2	14.3%	3	21.4%	1	7.1%	4	28.6%	5	35.7%	2	14.3%	12	85.7%			14	100%	0.60
後志	70	89.7%	9	11.5%	16	20.5%	10	12.8%	20	25.6%	6	7.7%	58	74.4%	6	7.7%	78	100%	0.25
空知	160	65.3%	32	13.1%	22	9.0%	6	2.4%	39	15.9%	12	4.9%	175	71.4%	19	7.8%	245	100%	0.23
上川	58	89.2%	18	27.7%	20	30.8%	15	23.1%	13	20.0%	17	26.2%	50	76.9%	21	32.3%	65	100%	0.52
留萌	16	100.0%															16	100%	1.18
宗谷	8	50.0%	1	6.3%	6	37.5%	7	43.8%	4	25.0%	2	12.5%	9	56.3%	2	12.5%	16	100%	0.45
オホーツク	40	74.1%	17	31.5%	8	14.8%	11	20.4%	15	27.8%	7	13.0%	16	29.6%	16	29.6%	54	100%	0.49
胆振	5	45.5%	2	18.2%	5	45.5%	1	9.1%	5	45.5%	1	9.1%	7	63.6%			11	100%	0.47
日高	2	100.0%															2	100%	1.21
十勝	34	73.9%	19	41.3%	22	47.8%	20	43.5%	9	19.6%	6	13.0%	26	56.5%	14	30.4%	46	100%	0.66
釧路	13	72.2%	7	38.9%	2	11.1%	15	83.3%	5	27.8%	8	44.4%	6	33.3%	3	16.7%	18	100%	1.02
根室	8	100.0%	1	12.5%	4	50.0%	5	62.5%			3	37.5%	1	12.5%	1	12.5%	8	100%	1.15
計	454	63.5%	124	17.3%	129	18.0%	111	15.3%	170	23.8%	74	10.3%	502	70.2%	84	11.7%	715	100%	
集中化係数	0.13		0.24		0.28		0.39		0.18		0.31		0.09		0.40				

### 3) 専門化係数

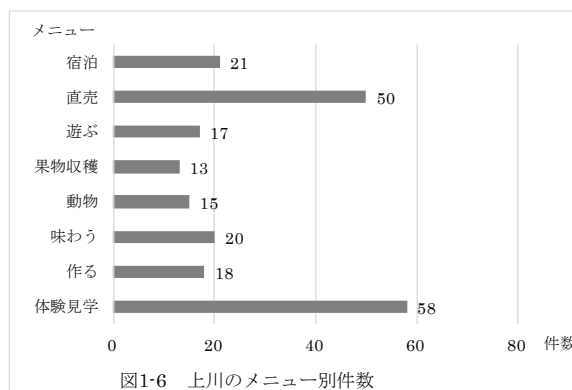
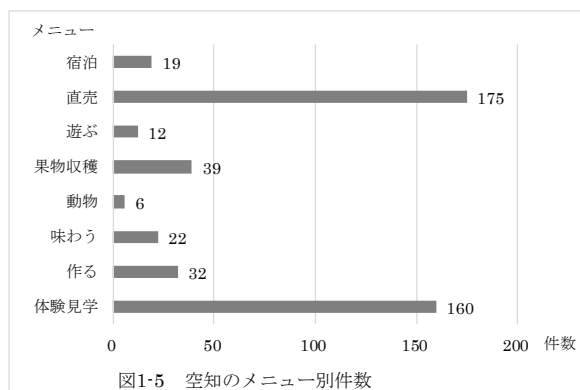
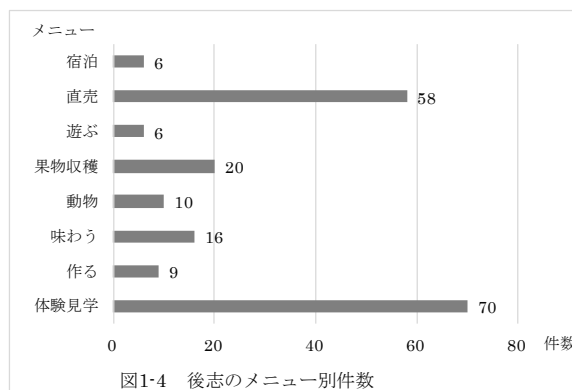
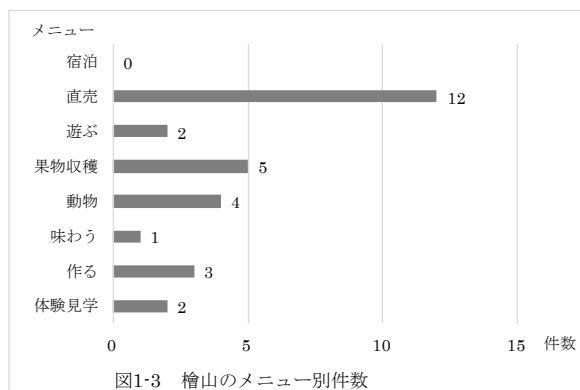
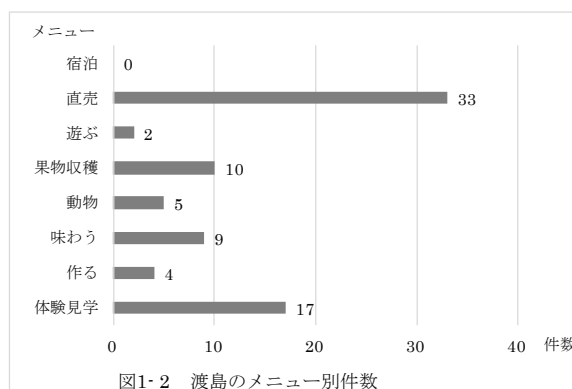
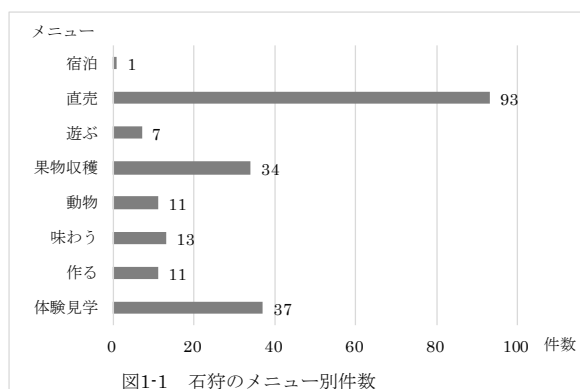
ある地域において、特定の項目分野への専門化が進んでいるかの判断に用いる。

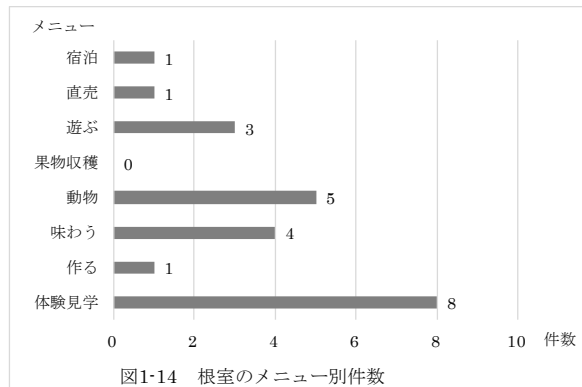
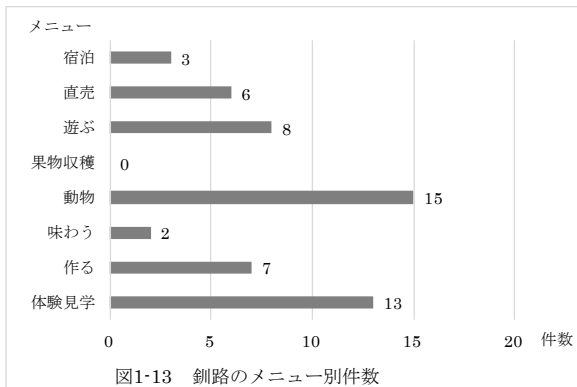
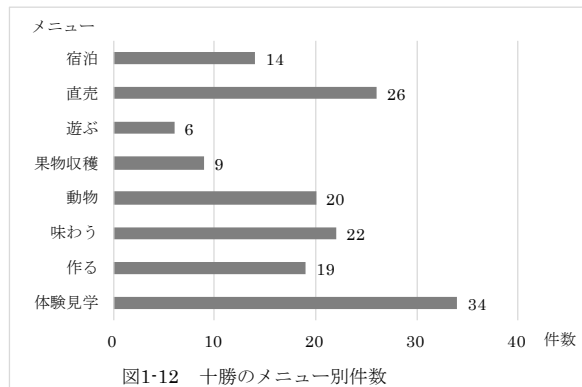
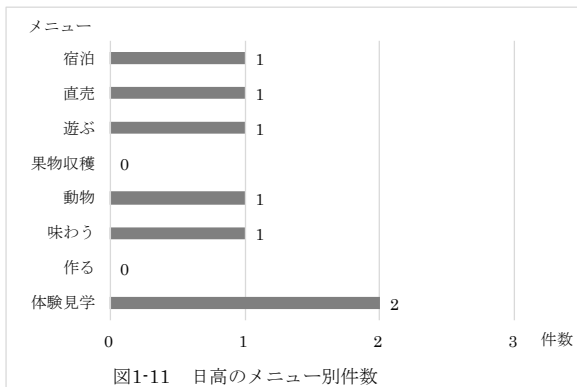
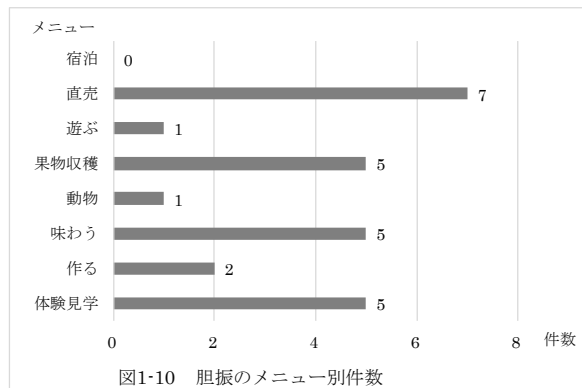
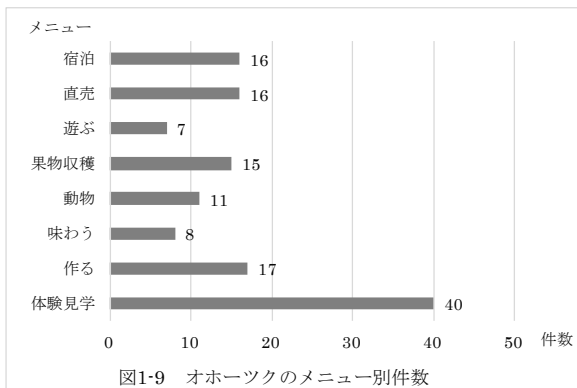
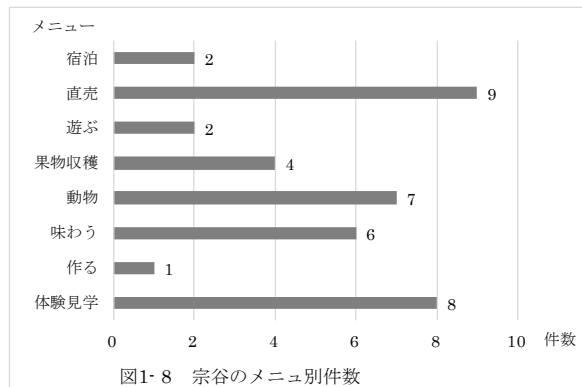
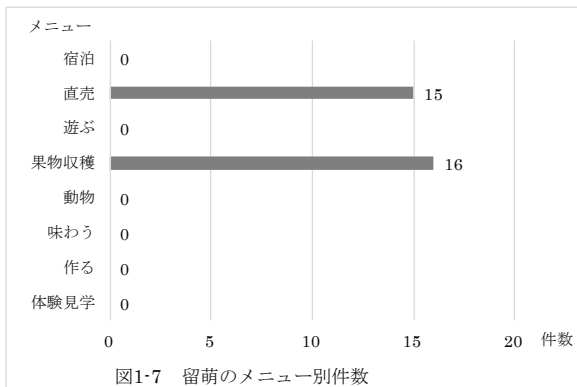
1.00 に近づくほどその地域の項目構成は専門化していることを示し、0.00 に近いほどその地域の項目構成は専門化していないことを示す。

### 3.分析結果と考察

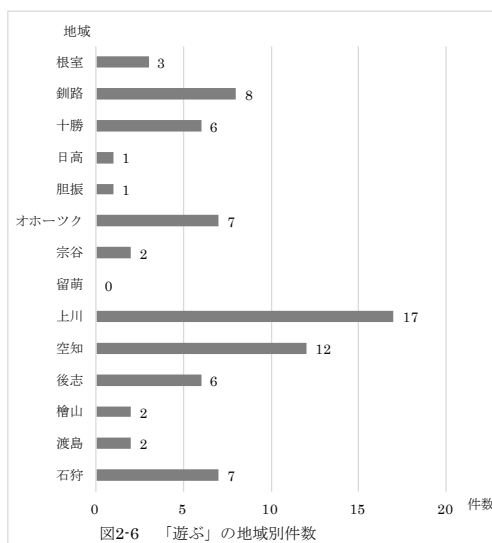
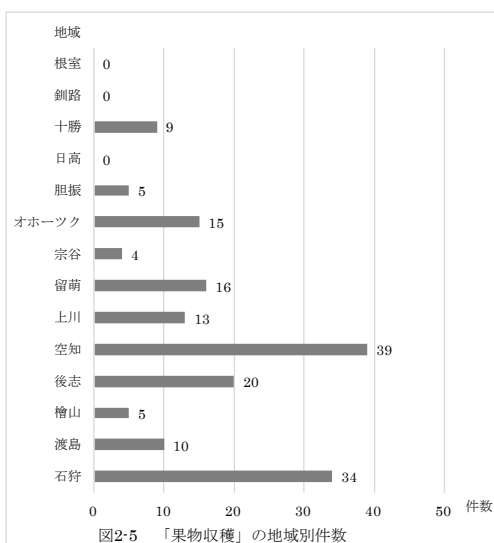
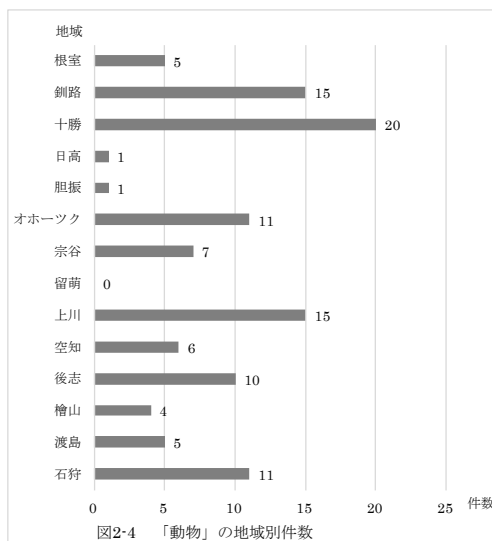
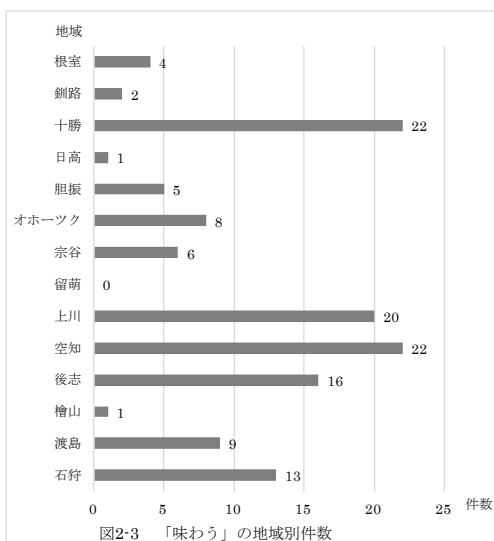
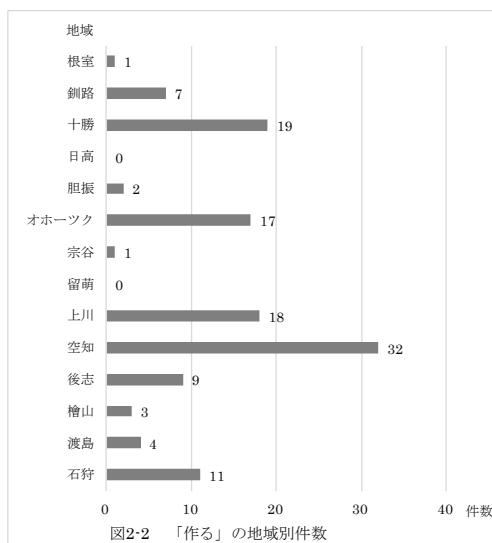
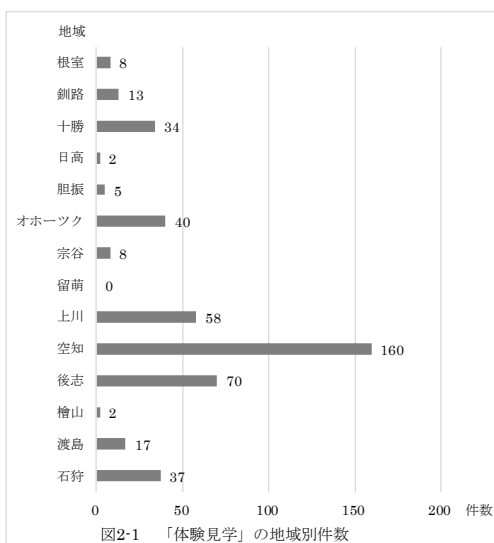
算定結果を表2および図1-1から図5に示し、地域係数について考察する。

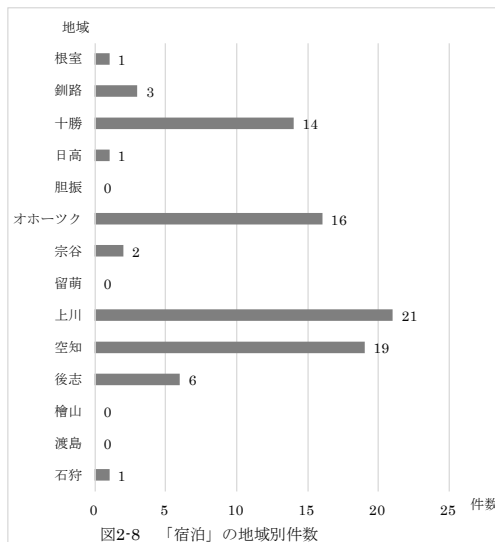
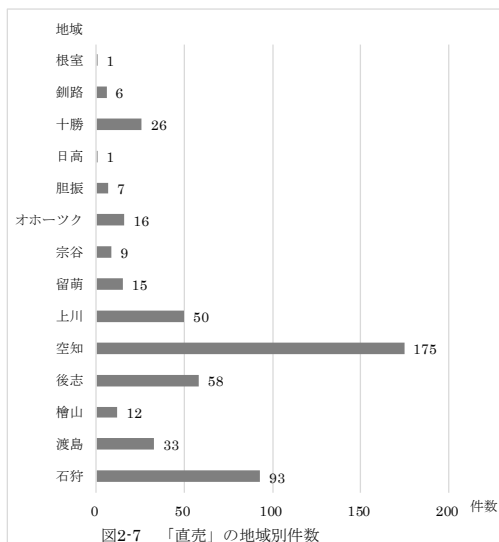
#### 3.1 地域別メニュー集計結果





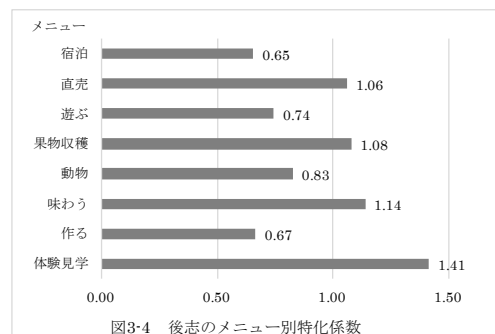
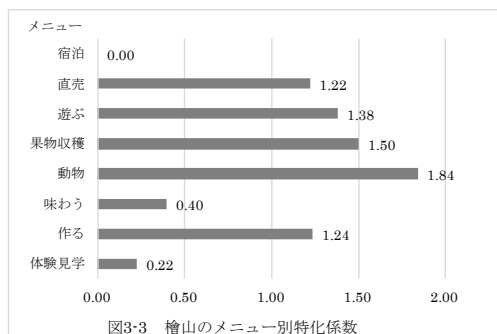
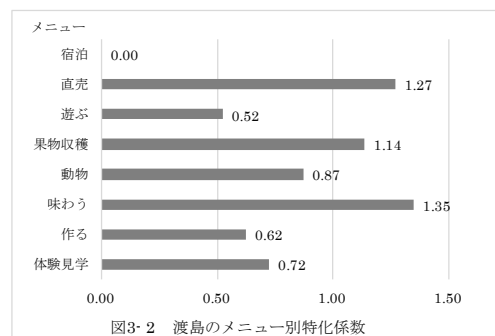
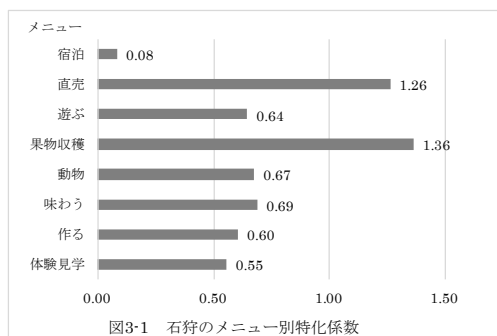
3.2 メニュー別地域集計結果

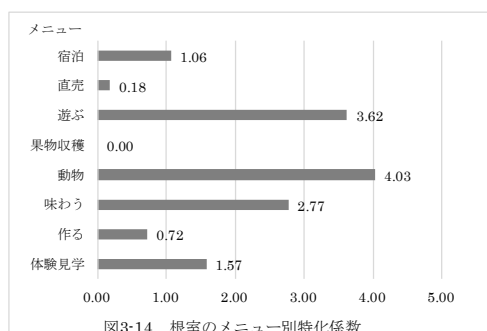
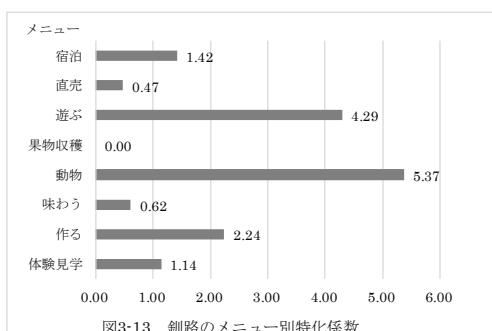
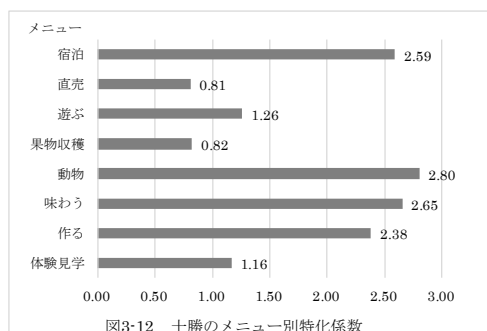
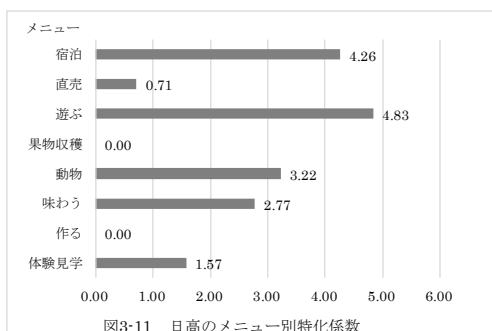
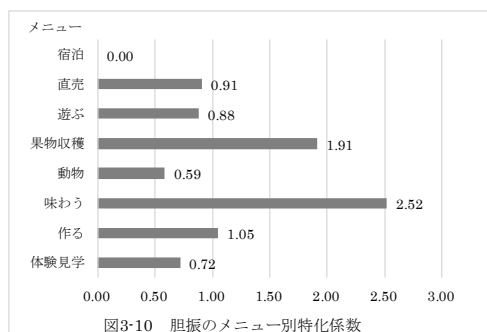
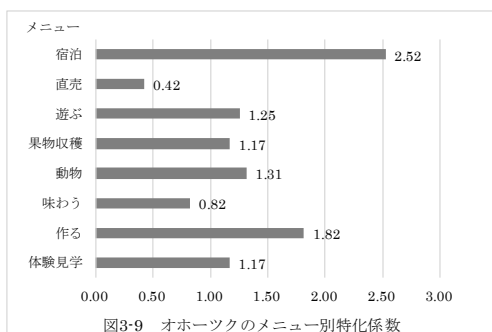
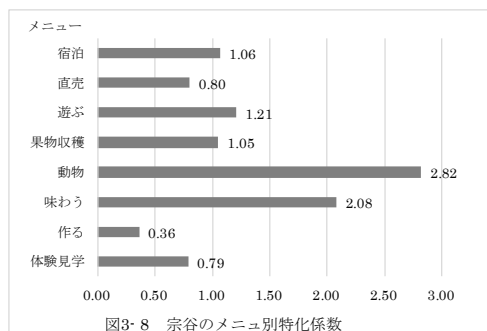
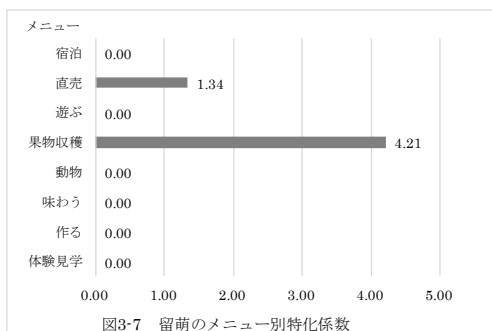
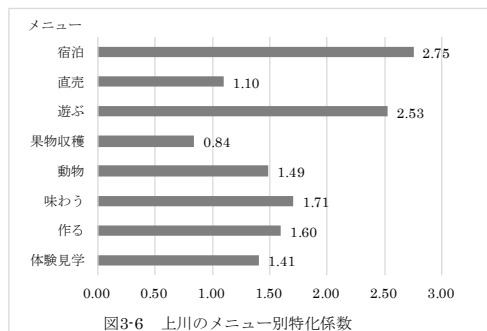
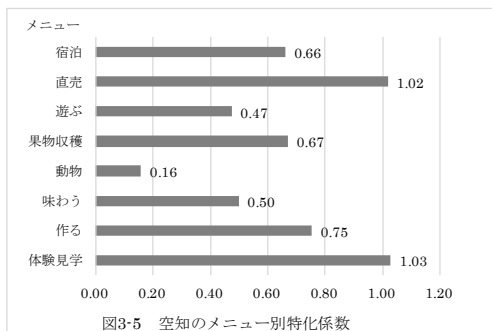




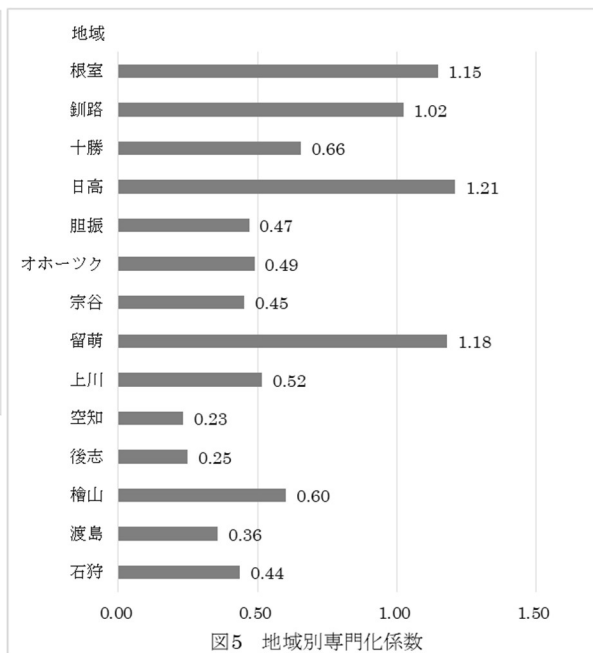
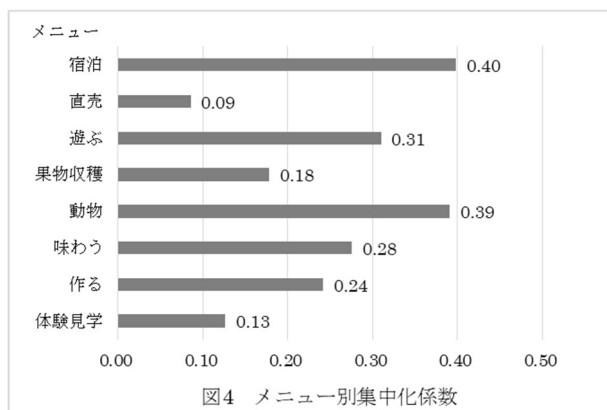
### 3.3 地域係数別結果

#### ①特化係数









①特化係数 (図 3-1 から図 3-14 参照)

係数が 1.00 を超えるメニューは、「体験見学」、「味わう」、「動物」、「果物収穫」、「遊ぶ」が 8 地域、「直売」、「宿泊」が 7 地域、「作る」が 6 地域であった。そのなかでさらに、係数が 2.00 を超えるメニューは、「味わう」、「動物」が 5 地域、「遊ぶ」、「宿泊」が 4 地域、「作る」が 2 地域、「果物収穫」が 1 地域であった。

②集中化係数 (図 4 参照)

最も低い係数のメニューは「直売」(0.09) である。「直売」は、多くの地域において導入が図られているメニューのひとつであることを意味する。現在では、「直売」は、地域活性化を図るうえで欠かせない地域振興拠点として位置づけられよう。一方、「宿泊」および「動物」など、係数が高いメニューは、農業以外のノウハウや資金面での制約が大きく、必ずしも導入が図られやすいメニュー内容ではないことを意味する。

③専門化係数 (図 5 参照)

「ふれあいファーム」の農場数が少ない地域においては、特定のメニューへの偏りが強いいため、自ずと専門化係数は高くなる傾向を示す。留萌、日高、釧路、根室のいずれも、他の地域と比較して「ふれあいファーム」の農場数は少ない地域に位置づけられる。

### 3.4 考察

分析結果を踏まえて考察を加える。

北海道は、都府県と比較して極めて広大な面積を有していることから、気象や土地利用形態などによって地域区分は多岐にわたる。農業農村についても、多様な農村空間を反映して、営農類型を中心とした地帯区分によって地域資源に差異がみられる。地域特性に応じた多様な営農展開が図られているなか、「ふれあいファーム」の取り組みについても、地域農業における基幹的作目を利活用しながら展開されていることが、本稿のアプローチにより明らかとなった。すなわち、「ふれあいファーム」メニューは、地域資源に特化した地域特性を有しており、今後は、地域資源を観光資源として転換する経営の枠組みが希求されよう。

さらに、「ふれあいファーム」の農場は、札幌を中心とした石狩、後志、空知およびその周辺に偏在していることも明らかとなった。すなわち、「ふれあいファーム」の集客にあたっては、都市との近接性が重要な要件のひとつであるといえる。都市との近接性が低いそれ以外の地域では、宿泊を伴う滞在型の事業展開が、「ふれあいファーム」を運営するうえでの経営戦略のひとつとなりうるであろう。とはいえ、「宿泊」などは、農業以外のノウハウや多額の資金を要することからも、新規参入や事業拡大に踏み切る農場が少なく、その結果、現在のところ、登録件数も少数にとどまっているものと推察される。「ふれあいファーム」を営む農場にとっては人材確保や資金調達などの面で解決しなければならない課題はあるものの、体験型余暇の需要が今後見込まれる場合には、農村観光における地域資源としての「宿泊」のポテンシャルの掘り起こしが期待されよう。

### 4.おわりに

本稿の目的は、北海道の農業農村において展開されている「ふれあいファーム」に着目し、「ふれあいファーム」データ分析により地域特性を把握することであった。主な結果は以下である。

第1に、ふれあいファームは、石狩、後志、空知で全体の約6割を占める。

第2に、「直売」および「体験見学」は、ふれあいファームの定番メニューである。

第3に、「遊ぶ」、「宿泊」の件数が少ない。

本分析によって、北海道の農業農村において展開されている「ふれあいファーム」は、地域が有する農業資産を活かしながら事業展開されていることが把握できた。しかし一方で、「ふれあいファーム」の主業はあくまでも農業であることから、様々な潜在需要があるにもかかわらず、副業のふれあいファームの事業展開にはおのずと限界があることも推察された。

したがって、農業を通じた観光資源ポテンシャルを十分に活かしていくためには、他業種との役割分担や地域住民との連携が、「ふれあいファーム」の今後の展開には不可欠となる。

### 注

注1) 「ふれあいファーム」とは、都市と農村の交流に意欲的な農業者の農場を対象として、北海道農政部農村振興局農村設計課が登録を推進している制度である。訪問者が農作業体験や農業者との交流を通して、農業農村の魅力を感じてもらうための交流拠点として位置づけ

ている。登録には以下の要件が必要となる。

- ① 現在、農業に従事していること
- ② 地域の農業・農村の振興に意欲の高い農業者
- ③ 都市住民との交流や情報発信などを通じて、都市住民に対して農業・農村のもつ役割や機能について、理解の促進に努めることが可能な農業者

注 2) 個別の「ふれあいファーム」には、個人農家をはじめ、有限会社など法人形式は多様である。「ふれあいファーム」を理解しやすくするために、本稿では、法人格を含めて適宜「農場」と称する。

注 3) 特化係数、集中化係数、専門化係数については、山口（1987）を参考とした。具体的な数値をつかった算出方法を以下に示す。

#### ①特化係数

$\gamma$  地域*i*項目の特化係数は、全地域における*i*項目の構成比で $\gamma$  地域における*i*項目の構成比を除して求める。

1.00 より大きい小さいかで地域の特徴的な構成(特化度)を判断できる簡便法である。

算定事例として、石狩の「体験見学」の特化係数を示す。

分子 35.2%、分母 63.5%より、 $35.2\%/63.5\% \doteq 0.55$ となる。

#### ②集中化係数

全域的にみて、該当項目の集中化が進んでいるかの判断に用いる。

1.00 に近づくほど該当項目は特定の地域に集中していることを示し、0.00 に近いほど該当項目は特定の地域には集中していないことを示す。

算定事例として、「体験見学」の集中化係数を示す。

$$\frac{1}{2} \left\{ |8.1-14.7| + \dots + |1.8-1.1| \right\} \times \frac{1}{100} = 0.13 \text{ となる。}$$

#### ③専門化係数

ある地域において、特定の項目分野への専門化が進んでいるかどうかの判断に用いる。

1.00 に近づくほどその地域の項目構成は専門化していることを示し、0.00 に近いほどその地域の項目構成は専門化していないと判断される。

算定事例として、石狩の特化係数を示す。

$$\frac{1}{2} \left\{ |35.2-63.5| + \dots + |1.0-11.7| \right\} \times \frac{1}{100} = 0.44 \text{ となる。}$$

#### 参考文献

- [1] 田林明・大石貴之（2014）「首都圏とその周辺における農村空間の商品化による観光活動の地域差」『地理空間』7（2）、pp.113 - 148.
- [2] 林琢也（2010）「入園料からみた観光農園経営の地域的特性：集客圏および所得との関わりから」『観光科学研究』3、pp.143 - 154.
- [3] 北海道農政部農村振興局農村設計課（2017）「北海道農業体験情報 - ふれあいファーム」（<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/nsi/hureaifarm/hureai-top.htm>） [2017年11月1日参

照].

[4] 山口誠 (1987) 「地域開発計画のための経済分析手法-3-」『産業立地』26(8)、pp.50-58.

(2017年12月2日受理)